



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

赤鬼の春正 39

憧れの舞台を存分に楽しんで

▶平日にもかかわらずアルプススタンドは真っ赤に染まった。



真っ赤に染まったアルプスからの声

1回は両チーム得点圏にランナーを進めながらも、得点につながらなかった。彦根東・慶応の両投手が2回は少ない球数で、3回はともに相手打者を三者凡退で抑え、両チーム無得点のままスコアボードに0の文字が並ぶ。

1回

森田恭司校長先生は1回裏の守備の様子を「1アウト2塁のピンチだったが、球が走っていたので安心して見ていられた」と振り返られた。新庄恭子さん(2-6)は応援席を見て「応援席が赤一色で、団結している様子が見えた目から感じられる。自分たちの応援の声が少しでも野球部の力になればうれしい」と笑顔を見せた。林さくらさん(2-4)は野球部に向けて「1回の攻撃では点が取れなかった

が、打っているのもこのまま頑張つてほしい。精一杯頑張つてほしい」とエールを送った。水谷洸太郎君(2-6)の母、直美さんは「息子が憧れていた舞台なので存分に楽しんでほしい。こんなにたくさんの人に応援に来てもらって子どもたちは幸せだと思う。今まで頑張ってきたことを発揮し、笑顔で頑張ってもらいたい」と微笑まれた。

2回

北村優さん(1-2)は「選手たちのやる気が応援席にまで伝わってきた。もっと応援頑張ります」と意気込んだ。吹奏楽部の西山乃々子さん(1-6)は「ヒットが出ているので、いけるかなと思う。相手も強いので頑張つてほしい。選手がのびのびとプレーできるような応援をした」と笑顔で話した。松吉穂乃果さん(2-7)は応援について「応援団はみんなが一致団結していて、野球部にも良い影響を与えられていると思う。選手たちが良いプレーをできるように、背中を押せるような応援をしたい」と意

3回

山岡右京君(1-8)の父、誠さんは「まだ本来の力を出せていないのでいつもの力を発揮してほしい。いつも村中先生に言われている『与えられた仕事をしっかりする』ことを心がけ、期待以上の成果を出してほしい」と期待された。吹奏楽部部長の明石珠実さん(2-8)は「一進一退の状況だが、自分たちの演奏で少しでも試合を前向きに進められるようにしたい」と意欲を見せた。チアリーダーの箕浦真妃穂さん(1-3)は「チャンスは多いが、今のところ得点にはつながっていない。もっと頑張ってもらえるようにチアとして頑張りたい。声や身振りをもっと大きくして選手に届けたい」と語気を強めた。